

環境学委員会・健康・生活科学委員会合同分科会の設置について

分科会等名：環境リスク分科会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印を付ける。)	○環境学委員会 健康・生活科学委員会
2	委員の構成	20名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	<p>環境リスクの制御と対応は、人と生物及び生態系すべてを念頭におき、環境リスクの科学的な評価、制度、リスクマネジメント、リスクコミュニケーションなど多くの学問領域の協力と、専門的な知識が不可欠の分野である。本分科会はエビデンスと社会合意に基づいた意思決定を支える諸科学の発展、国際社会との協力、専門家の育成を目的とする。</p> <p>備考欄に記載した提言や6分科会合同での報告の発出、公開行事開催、e-bookの出版などの実績を踏まえ、第26期では、第一、二、三部にまたがる学際的な分科会を編成し、審議事項に記載した三項目について、社会合意のプロセスを含む超学際的な検討を行う。関連学会や機関と合同でのシンポジウムの開催、国際社会との協力にもつながる提言などの意思の表出をめざす。</p>
4	審議事項	<p>1. リスク教育の専門家の育成</p> <p>2. プラスチックのガバナンス</p> <p>3. プラネタリーヘルスに係る審議に関すること</p>
5	設置期間	令和5年12月22日～令和8年9月30日
6	備考	<p>【提言】「マイクロプラスチックによる水環境汚染の生態・健康影響研究の必要性とプラスチックのガバナンス」を発出。令和3年12月「プラスチックのガバナンス」に関わるシンポジウムを開催。令和4年5月に「リスク認知と教育」に関わる学術フォーラムを開催し、Elsevier社より、我が国の公害への対応から持続可能な開発目標達成への道筋を英文でまとめたe-bookを出版。関連する6分科会合同で【報告】「初等・中等教育におけるリスク教育の推進」を発出。令和5年9月「気候変動・生物多様性損失と人間社会の健康・社会：学際研究から市民協働実践活動の展開」を開催。</p>